

■ 第2回日立市総合計画後期基本計画策定委員会 議事録要旨

日時：平成28年8月9日（火）

午後2時から

場所：消防拠点施設3階講堂

出席委員：21名（26名中）

1 開会

2 委員長あいさつ

各界の方とお話しする中で、世間話のところから地域づくり、地域創生の話が増えている。皆さんも普段から様々な場面でそのような話をされていると思うが、是非このテーブルに挙げていただいて、御意見等をお出しいただければと思う。

3 確認事項

（1）第1回日立市総合計画後期基本計画策定委員会の議事録について

事務局から、前回の議事録について内容確認及び市ホームページへの掲載について説明し、了承された。

4 議事

【参考資料】地域経済分析システム及び構造改革特区制度について

議事に入る前に、事務局から、地域経済分析システム及び構造改革特区制度について参考資料に基づき説明を行った。

委員：全国の状況がこのようになっていて、そこからニーズを捉え、まちづくりに生かしているということ、ある市町村の方に言われた。そういうことを情報として共有できていないことが、日立市が遅れる原因だと思い御提案させていただいた。重要なのは、地方公共団体だけでなく、誰でも情報を利用できるということ。自由研究あたりでそれらを駆使できる小学生や中学生などの子供達が出てくるのが望ましい。こういうものを活用できることが、将来を背負って立つ若者になるきっかけになればと思う。シビックセンターなどの場所を開放して、こういう情報が簡単に得られるというところまで行ってほしい。

（1）後期基本計画策定に係る各種調査の集計結果等について

【資料1】事務局から、最近の人口動向及び窓口アンケートの結果について資料1に基づき説明。

委員長：人口は直接的に減少している。自然減、社会減と減少している中で、社会減の転出が20代は就職、30代は住宅の購入等で転出する傾向にあり、力を入れなくてはならないものとして考えられるが、委員の意見を伺う。

委員：3月の転出が多いのは就職・進学であり仕方のないところだと思う(資料1の3頁)。それを抑えるかというよりも、多様な生き方という意味では仕方ないことなので、むしろ転入が少ないことが問題なのかなと思う。転出への対応よりも転入を増やすこと、外部の人に日立の魅力を伝え、転入してもらうことが重要だと思う。外国人の転入増が日立市の人口動向に大きな影響を与えている(資料1の4頁)。これは良い傾向だと思うが、その理由を伺いたい。

事務局：外国人の転入ということだが、アンケートではどのような理由かまで追跡できていないが、聞き及ぶ話では、市内企業に外国人労働者が最近増えている傾向にあるということ。また、人手不足と言われる介護職、福祉施設で働く外国人も多くなっていると聞いている。

委員：前回、日立市の人口減に関する説明にショックを受けた。資料1を興味深く見たが、出産する人の転出が多いのではと思っていたが、やはり20代が多い。その理由の一つに、市内病院に産科が少なく、子どもを産むには日立市は非常に不便であると聞いたことがある。就職ならやむを得ないが、出産のために日立市を離れているということがあると思われるが、このアンケートから読み取れないか。

委員長：転出・転入理由の中に、出産という項目があればよかったかもしれない。事務局からはいかがか。

事務局：今回のアンケートでは、出産という項目を選択肢に設定していないため分からない。補足すると、この後の資料になるが、市民ニーズ調査を行った中で、日立市が住みにくい理由を年齢別に集計してみると、「出産、子育て環境が充実していない」点について、明らかに30代が多くなっている。出産、子育て環境が充実していないことに対して、30歳代が住みにくいと感じているということが伺える(資料3の14頁)。

委員長：出産・育児環境というが、出産と育児を分けたほうがより分かりやすいかと思う。産科の状況はあまり見通しが良くないのか。

事務局：補足すると、日立市がこれから施策を行う上で重要と思うことをアンケートで聞いている(資料3の10頁)。前回調査では上位になかった地域医療体制が1番に上がっている。2番目にこども福祉も入っているが、日立市では小児科、産科の医師が不足しているのはデータでも明らかであり、それについて不安に思っている市民も多い。地域医療体制の充実に対するニーズが高まってきていることがアンケートで分かっている。

委員長：いわゆる救急医療体制は良いという反面、産科や日々の地域医療体制をもう少し細かく見ていくことが必要。医療の中でも、非常に充実している部分があれば、明らかに足りていない部分もある。

【資料2～4】事務局から、市民意向等の反映のための取組として、市民ニーズ調査の結果（速報値）やグループインタビュー及び市報アンケート等の結果（速報値）について資料2、3及び4に基づき説明。

委員：この調査結果について、グループインタビュー、市民懇談会でいろいろな意見が出ているが、そこに参加した男女比率、女性のどのくらいの方が意見を述べているか知りたい。アンケートは男女差なく行われているが、生の声として女性が発言をなさったかどうか伺いたい。

事務局：グループインタビューについては、男女別で統計は取っていないが、参加した印象で申し上げると全体の中で女性は3～4割くらいだったかと思う。インタビューでは参加者にまんべんなく意見を伺っているので、発言がないということはなかった。

委員：市民懇談会に出席したところ、出席した女性も多かったが、男性が意見を述べると女性がなかなか発言できなかったもので、どのようにされているかをお聞きした。

委員長：女性の出席者は感触として3～4割で、発言も男性が多かったということか。コミュニティ関係で、女性が発言できる場はあるか。

副委員長：コミュニティの話が出たが、グループインタビューに参加した際、女性の意見も聞いていただけた。コミュニティにおいても女性の役割がかなり多くなっている。高齢化している中で女性の参加が増加しており、女性の発言力は大きくなっている。良い方向に向かっているが、高齢化しているので、若い人とのギャップはある。

委員長：男女関係なくという雰囲気になって欲しいと思うが、この場でも女性の方から御意見を頂きたい。有名な増田レポートでは、以前から人口動態について辛辣な結果を出しているが、2040年には若い女性が60%減少すると言われている。若い方が何故こんなに住みにくいと感じるのか。ここは若い委員に伺う。

委員：日立市は、生まれ育った場所なので、大学にいて他県から来た人が持つ日立市のイメージがあまり良くないのに対し話し合うこともある。住みよいと思う私でも就職先は日立市を考えているわけではない。東京や全国各地を飛び回る仕事をしてみたいという思いがあり、就職で転出するのは、日立が住みよい場所ではないからというのは一概にいえない。一度離れていろいろなものを見て戻ってくる。そのようなライフプランも考えている。日立市が住みよい場所ではなく、一度離れると戻って来ない、という友人もいるが、個人的には戻ってくることも一つの選択肢である。

委員長：若い人が、日立市が好きだが、外に行きたいというのは全国共通。それにしても、なぜ住みにくいという結果がでてくるのかについて考える必要がある。

委員：アンケート結果をみると、改善されたところが高齢者福祉のみ。若者に住みよいまちづくりという方針があるが、まだまだそうならないと感じる。いろいろな地方の友達から話を聞いても、日立は何もない、ということと言われる。日立市には動物園、様々なイベントがあると思うが、地域のイベントになってしまっているのか

など感じる。県外、市外から人を呼べていない。日立市の良さがアピールできていない。日立らしいものがあるのに、市外、県外にPRできていない。日立市を知らない人が多いと思う。もう少し、若者が少ないからこそ若者を呼ぶための社会づくりをする必要があると思う。医療体制、教育体制の充実が必要になってくると思う。日立市は住みづらいまちではないと思う。インターチェンジもあり、海・山もあり自然にも恵まれている。コミュニティをしっかりとしていく必要がある。

委員長：予算のパイが限られている中で、世代間競争になっていく傾向がある。日本全国で老人と子どもの予算配分が17：1ともいわれている。若者対策を充実させるという事は老人福祉を削るということでもあり、中長期的な視点で、施策に取り組んでいく必要がある。若者の部分については、やるといいながら予算が配分されていない状況もあり、厳しい若者の声として受け止めたい。また、先ほど委員が指摘した外国人の件。ここに光があるのではということも若者らしい意見だと思う。一方で、医療福祉の充実については、どの部分の充実が必要かということを経査していかなければいけない。どの施策に重点を置くかは政策的な判断が必要。現在、日立市内に産科はないのか。

委員：私自身は小児科の医者だが、地域医療で産婦人科、小児科の充実度が悪いとあるが、それはどこの市町村でも言われる。日立市では、以前の日立総合病院の産婦人科では、年間1200件程の分娩をしていたが、新生児医療も含めてなくなった衝撃が大きいのではないかと感じる。現在、日立市の支援を受けるなどして産科医を派遣してもらい、分娩が年間200～300件程ある。全国の地方都市も同じような傾向である。市民の皆さんの中には満足していない方もいると思うが、日立市は県内市町村と比べて高い水準にあると感じている。日立総合病院も診療科の充実を図っている。出産環境については、市内に産科がもう1箇所あるだけで、努力しているが容易に解決できる課題ではない。

市民ニーズ調査の結果を見てみると、道路の状況に満足していない人も80%くらいいる中で、医療の問題よりもそちらの方が大きいように感じている。日立総合病院の救急センターは全国レベルであり、医療を提供する側と市民満足度の差が大きい。市民にもっと医療環境についてPRする必要があるのではないかと感じる。

委員長：市民が感じていることとの差が大きいということ。日立市の医療は全国的にみても充実しているということだが、年間200～300件以上の分娩については市外に依存しているということか。

委員：出産については市外（高萩、水戸など）の施設に依存しているが、それは財源よりも人手（医師）不足の問題がある。

(2) 後期基本計画の重点施策及び全体構成(案)について

【資料5、6】事務局から、後期基本計画の重点施策(案)及び全体構成(案)について、資料5及び6に基づき説明。

委員長：会議の目標は後期基本計画の全体像であり、特に重点を置くものが重点プロジェクト。これまでの経緯を踏まえた構成案になっていると思うがいかがか。

委員：大体の流れや計画の構成案はよく分かった。計画を実現するために裏付けとなる予算はこれに盛り込むのか。先ほど委員長の指摘のとおり、限られたパイの取り合いということがあると思われるが、予算の配分については公表しているか。

事務局：本日議論いただいている基本計画は、計画の上位部分。具体的な事務事業の検討については並行して取り組んでおり、指摘の点についても今後5年間にどのくらいの支出が可能か、という財政フレームも加味しながら事業を精査する。

委員：立派な計画はできたが予算がないのでできない、ということにならないようにしてほしい。実現できれば、素晴らしい日立市になると思う。

委員長：昨年度の総合戦略では、理念・計画があるため、予算配分もされていた印象がある。

重点施策案(資料5の12頁、13頁)について、1～5と並べたとき、施策の先頭にある番号は優先順位を示しているのか。

事務局：基本的に優劣は想定しないが、市民の皆様からの意見や本市が直面する課題から重点施策に至るまでの経緯を踏まえると、ある意味一番目にあるものが一番大事ということにはなる。現時点ではこのような順番だが、委員の皆様からご意見をいただき、検討していきたい。

委員長：現時点で優先順位はないとのことだが、後期基本計画での「重点施策の見せ方」として重要な部分。施策の並び方については、子育てが最初に来るべきかと思う。各委員にも伺いたいが、いかがか。

委員：全体構成案で、アンケート、グループインタビューでの市民の意見・要望を踏まえて、傾向や課題が示されており、重要施策が出されていくことと思うが、市民にわかりやすい資料を作っていく必要がある。難しいことを書かれても一般市民には伝わりづらい。自分達の意見がどの施策に反映されているのか、がわかるような形でお願いしたい。

副委員長：いろいろな人の意見を聞いて計画を作るが、それぞれの人が何をすべきかが示されていないと感じる。こういうことをやるが一人一人が何をすべきかを盛り込んでいく必要がある。まちづくりを進めるのは住民ということを計画に入れていく必要があると感じる。ひたらしさの中にはコミュニティがあり、コミュニティを担っているのは一人一人の住民である。

委員長：施策の大綱が6つあって、最後に市民協働ということが全体の中では入るのかなと思う。中身をどう書くかは今後示していただきたい。確かに行政だけがやるのでないというところは非常に大事である。

委員：市民アンケートからの要望を反映して計画を立てるべきだと思う。家にいると生きがいを見い出せないと思う。日立市も、皆が集える場所を作るということをイベント等で取り組んでいると思うが、住民参加ができるような娯楽の視点、イベントよりももう少し恒常的なものも盛り込んで欲しい。例えば、映画館の復活。映画館に行った後カフェや食事に行く。労働者の生活の中ではそんな娯楽が重要であった。市が丸抱えでやるということではなく、民間を補助して、賑わいが創出できるようなイベントには積極的に援助していただいて、一人でも多くの方が引きこもりにならないように、毎週あそこに行けば集まっているというようなものがあると良いと思う。そのような娯楽の視点も盛り込んでいただければと思う。

事務局：娯楽のことで御意見を頂いたが、若い方の御意見として娯楽の場が少ないという御意見を頂いている（資料3の14頁）。昨年の総合戦略でも、若い人の意見として日立市で遊べる、レクリエーションの場所が少ないという御意見も頂戴した。商業か産業か都市基盤か議論があるが、そういう要素も盛り込みたい。ニーズが若い人に多いということは事務局も認識している。

委員長：「賑わい」はどの重点施策に入るか。

事務局：具体的にどうするかということになるが、例えば、「生涯活躍社会の実現」の場合は、市民が生き生きと活躍できる場を設けるということ。あるいは「産業の振興」「都市力向上」などに盛り込むことも考えられる。内容によって、どこに振り分けていくかは検討したい。

委員長：公設市場跡地利用のことも入るか。日立に何も無いと言っている若者が求めているのはあのような一定の広さを有した施設だと思う。また、市民ニーズを踏まえると、地域医療が一番上に位置付けられるべきとも思うが、若者が一番で良いのではとも感じる。重点施策の順番については、次回以降でもご意見をいただきたい。

5 その他

事務局：次回策定委員会について、10月下旬頃の開催で調整したい旨説明。

6 閉会

以上